

Funai Overseas Scholarship 第一回留学報告書

留学先決定に至るまでの経緯

2020年6月

若原征哉

1. はじめに

私は、2020年3月に岩手大学農学部で学士課程を修了し、2020年8月からアメリカ合衆国・ミネソタ州に所在するミネソタ大学ツインシティ校で Land and Atmospheric Science (LAAS) PhD program に在籍します。同プログラムでは、土壌科学と精密農業を中心に学習、研究する予定です。

この度、上記 PhD 課程へ進学するにあたり、幸運なことに FOS による支援をしていただけることになりました。とても優秀な船井財団奨学生の皆さんの中で、私が読者の方々に提供できるユニークな情報と言え、地方国立大学生としての視点だと思えます。そこで、この第一回留学報告書では、私が地方国立大学生として留学を考え始めてから留学先大学に合格するまでの過程を書かせていただきます。なお便宜上、以下の段落において、海外教育研究機関で学位取得を目指し学習、研究することを「(海外) 進学」、海外教育研究機関において学位取得を伴わない学習、研究をすることを「(海外) 留学」とします。

2. 米国大学院進学を志した経緯

2-1. なぜ大学院へ進学するか

岩手大学への入学が決まった際に、父から「理系大学へ進むなら大学院まで進学するほうが良い」と言われ、初めのうちは外発的に大学院進学を志していました。ただ、大学で勉学に励みながら進級するにつれ、いつの間にか、大学4年間で学べることの限界と、その不十分な知識をもって社会へ出ることへの不安、一方で自らの専門分野を仕事にしたいという思いから、父に言わ

れた言葉を理解し、自らの意思で大学院への進学を決意しました。今では、大学院進学への準備を通じて、大学院でやりたいこと、大学院卒業後にやりたいことが明確になり、またその実現に向けて少しずつ実力と自信をつけています。

2-2. なぜ米国大学院か

心機一転、高校では選択しなかった生物分野の知識が必要となる岩手大学農学部に入學した頃は、「農学の本場はアメリカ」という必ずしも正しくない知識と幼少期からの日本人英語話者への憧れから米国大学院進学を漠然と考えていました。転機が訪れたのは、大学2年生の頃に精密農業に興味を持ち始めたときでした。次世代の中心農業技術として日本をはじめ多くの国で注目を集め、さらに私が好きな土壌科学とも密接に関与していることに強く惹かれました。しかし、日本で精密農業を研究している有名大学院は農業機械に重点をおいており、土壌科学へ重点をおいて研究している有名校を見つけることはできませんでした。そこで世界に目を向けたとき、精密農業分野の第一人者の一人で、土壌科学で学位を取得された Dr. David Mulla が名門研究大学ミネソタ大学の LAAS に在籍していると知りました。これを機に LAAS への進学を目指しはじめ、大学3年時には進学準備の一環として Dr. Mulla の下で学生インターンシップという形での留学をしました。この留学中に知った教育研究設備や教員の充実度、大学院生への好待遇、活気に満ち溢れた学生などは、私のミネソタ大学への進学志望をより確かなものにしました。

3. 出願準備

3-1. 海外留学 (2017年10月～2018年9月)

ミネソタ大学への進学を実現するための最善策として、まず頭に浮かんだのは、Dr. Mulla の下で学生インターンシップをすることでした。他の学生があまりやらない学生インターンシップを通じて、進学に備え精密農業や土壌科学などについて学び、また私の情熱や能力、計画性などを示すことで第一志望校の先生方に顔と名前を覚えていただく以上に効果的な一手はないと考えました。岩手大学とミネソタ大学の間には提携がなかったため、学生インターンシップへ向けた交渉の際は Dr. David へ Email で熱意を伝え、またアメリカ人の友人も電話にて掛け合ってくれました。

そして結果として、予想通り先生方に強い印象を残すことができました。LAAS graduate program の共同監督者でもある Dr. Mulla から進学を歓迎していただき、3 通必要になる推薦状についても、1 通は Dr. Mulla、もう 1 通は Dr. Nic Jelinski に作成して頂けることになりました。

一方で、この留学は岩手大学を 3 年後期から 1 年間休学して行いましたが、この 1 年間の休学がミネソタ大学合格の 1 つの鍵だったと思います。岩手大学からミネソタ大学への進学を目指すうえで最も悩まされたことは情報不足です。国際課をはじめ、大学も最大限の協力をしてくれましたが、海外大学院へ卒業生を輩出することが極めて少ない大学から得られたのは非常に限られた情報でした。この情報不足を補いながら、所属大学での学業の水準を落とさず、かつミネソタ大学などへの出願にも最大限磨きをかけるうえで、1 年間の休学は不可欠でした。

3-2. 志望校選び

(2018年10月～2019年10月)

留学を通して、第一志望のミネソタ大学 LAAS は精密農業と土壌科学を学ぶ上で最高の環境であることを確信し、また合格へも十分な自信はありました。また、留学後

も連絡を取り続けていた Dr. Mulla から、2020 年 9 月入学の学生向けの TA/RA 予算を確保してあるという連絡もいただきました。ただし、万が一の場合に備えて、その他 5 校の PhD 課程へも出願することにしました。これら 5 校については「25 Best Colleges for Precision Agriculture – PrecisionAg¹」や Dr. Mulla からの助言、私の学習・研究興味や各大学の教員へ尋ねた 2020 年度の TA/RA 予算など照らし合わせながら合格難易度を散りばめて選出しました。教員へ連絡を取る際は、メールに CV、成績証明書、TOEFL スコアレポートなどを添付しました。以下が、出願した全 6 校です。

- University of Minnesota (第一志望)
- Perdue University
- Auburn University
- University of Missouri
- Washington State University
- North Dakota State University

3-3. TOEFL iBT & GRE

(2018年9月～2019年9月)

まず、TOEFL iBT は 2018 年 9 月 15 日と 2019 年 4 月 6 日に計 2 回受験しました。大学 1 年生の頃から英語を継続的に学習したので、リーディングとリスニングのテスト対策はしませんでした。一方で、ライティングとスピーキングは TOEFL iBT の趣向に沿った解答を求められるので、初回受験(力試し)後の半年間で勉強しました。ライティングは「まるわかり TOEFL iBT テストライティング」を使い、スピーキングは YouTube に投稿されていた非公式の練習問題を使いました(解答解説なし)。

◆ 1 回目: R27, L27, S22, W19

◆ 2 回目: R27, L28, S23, W24

次に、GRE は 2019 年 4 月 5 日と 2019 年 9 月 20 日に計 2 回受験しました。ミネソタ大学大学院の歴代合格者のスコア平均とそ

1. <https://www.precisionag.com/market-watch/25-best-colleges-for-precision-agriculture/>

の分布をもとに目標点数を定め、日本人でも高得点を狙うことができる Quantitative Reasoning を中心に、初受験（力試し）後から Magoosh で勉強しました。初回受験を通じて GRE は Verbal Reasoning と Analytical Writing を中心に非常に難しく、短期間での大幅スコアアップを狙うことは困難という入手情報が正しいことを体感したので、GRE 対策に半年間以上の時間を使わず、他の申請要件に時間を使いました。

◆ 1回目: V149, Q157, A3.0

◆ 2回目: V149, Q162, A3.5

3-4. 奨学金申請（2019年7月～9月）

各志望校へ出願するための必須要件の準備に意識が集中しすぎたあまり、任意である奨学金申請の準備を始めるのが遅れてしまいました。しかし思い返すと、船井奨学金への合格が、志望校への合格をこれ以上ないほどに後押ししてくれました。反省として、多くの奨学金の締め切りが6～9月であることを鑑みて、奨学金申請への準備は上記のように7月ではなく、少なくとも6月、できることならば5月から始めるべきだったと思います。

● 奨学金申請書作成までの過程

まず船井財団の先輩方が運営するウェブサイト²や日米教育委員会の奨学金ウェブサイト³などを参考に、申請可能な奨学金をリストアップしました。そして、これらの奨学金の支援内容や奨学生交流イベントをはじめ、財団の創設者や創設背景、歴史、求めている人材などについても隅々まで調べ、自分に合った奨学金を4つ選びました。申請書を作成する際は、専門外の方が読んでもわかるように配慮しつつ、自分の学習・研究興味や将来像について、嘘偽りのない範囲で財団のビジョンへ寄せるように心がけました。また、第一志望だった船井

2. 塚本紘康さんのウェブサイト

<https://usphdlife.com/scholarship/>

馬淵祐太さん・佐藤わかかなさんらのウェブサイト

<https://hokudaikaigaigrad.wixsite.com/support/blank-rzg0d>

3. 日米教育委員会ウェブサイト

https://www.fulbright.jp/study/directory/shokin_c.html

財団への申請書作成に向けては、2018年のFOS奨学生で、ミネソタ大学大学院に在籍していらっしゃる佐藤わかかなさんに連絡を取りアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

● 面接準備

私が面接を受けた財団は船井財団だけです。財団選考員の一人の益田先生がブログにて、面接時に質問することは事前に決めていないと書かれていました。そこで、船井財団奨学生の方々がインターネット上で共有されていた質問内容や佐藤わかかなさんからお聞きした質問内容、そして私の申請書を参考に、友人からあらゆる質問を受け、それらに答えるという面接練習をしました。私が申請した奨学金とその可否は以下の通りです。

- 船井情報科学振興財団
—合格
- 中島記念国際交流財団
—書類審査不合格
- 伊藤国際教育交流財団
—書類審査不合格
- JASSO 海外留学支援制度
—書類審査合格
→FOS 奨学金合格のため面接辞退

3-5. エッセイ（2019年10月～11月）

● Statement of Purpose

ミネソタ大学向けの SOP 作成では、留学中に友達になり、現在も LAAS プログラム在籍中のアメリカ人学生が出願時に提出した SOP を参考にしました。幼少期から年代順に、どのような経緯で専門である精密農業・土壌科学に辿り着き、また、どのような準備をしてきたかについて書きました。また、FOS 奨学金獲得とその支援内容についても明記しました。他の志望校向けの SOP は時間の都合上、ミネソタ大学への SOP を部分的に編集して完成させました。

● Diversity Statement

ミネソタ大学、パデュー大学、ノースダコタ州立大学へは、多様性エッセイの提出も出願要件に含まれていました。そこで、

LAAS ウェブサイト上の Tips を参考にミネソタ大学への多様性エッセイを作成し、これを編集して残り 2 校の大学向けの多様性エッセイも完成させました。各添削と指導は岩手大学所属のアメリカ人教員と財団選考員の一人の加藤先生にいただきました。ありがとうございました。

3-6. 推薦状原稿 (2019 年 11 月)

前述のように、ミネソタ大学 LAAS での 1 年間の学生インターンシップの際に、2 名の教員から推薦状をいただく約束を既に取り付けていたので、必要な推薦状は残り 1 通でした。この一通は、岩手大学で所属していた学科の学科長に頂くことになりました。そこで、財団選考員の加藤先生の心強いご指導の下、学科長へ推薦状原稿を提出しました。推薦状原稿内では、学部時代の活躍を定量的・具体的に表現すること⁴を徹底しました。協力いただいた先生方、ありがとうございました。

3-7. 成績証明書と CV

GPA は 4 年前期終了時 3.54 で、できる限りの努力はしたので満足でした。CV は、インターネット上で見つけたテンプレートを参考に作成し、岩手大学所属のアメリカ人教員に確認、訂正していただきました。また、加藤先生のアドバイスを参考に、CV でも FOS 奨学金合格の旨を忘れずに記載しました。

4. 出願結果

以下が出願結果になります。

- University of Minnesota
—PhD 合格 進学決定
- Perdue University
—教員から面接のお誘い
第一志望合格のため辞退
- Auburn University
—PhD 合格

- University of Missouri
—MS 合格
- Washington State University
—PhD 合格
- North Dakota State University
—教員からの面接のお誘い
第一志望合格のため辞退

・詳細

合格と共に RA のオファー

University of Minnesota

Washington State University

入学意思表明後に RA/TA オファー詳細

Auburn University

RA/TA オファーなし

University of Missouri

5. 結びと謝辞

出願先すべての学校から高評価を頂くことができ、非常に嬉しかったです。米国大学院進学に向けた道程を改めて振り返ると、確かに、地方国立大学生としては馴染みのない米国大学院進学を目指すことで、情報不足や孤独感のような苦労はありました。しかし海外留学時をはじめ、常に金銭的、精神的な支援を続けてくれた両親や、励まし、協力し合いながら大学生活を共にした友人、また導き手となってくださった教員の方々がいて初めて米国大学院進学へ向かってひた走り、また実現することができました。改めて感謝申し上げます。そして、この与えていただいた機会を用い、計画し実行することでミネソタ大学という素晴らしい学校に合格したことを誇りに思うとともに、支援したくださった方々に良い知らせを届けることができ幸せです。

そして、これから博士号取得に向けた長く厳しい挑戦が始まります。気を引き締めなおし、持ち前の計画・実行力と根性で乗り越えていこうと思います。最後になりますが、奨学金給付を始め、多岐にわたり多大なご支援を頂いております船井財団に感謝を申し上げます。財団選考員の方々をはじめ財団関係者の皆様のご指導はこの上なく心強く、また優秀な財団奨学生の存在に大きく鼓舞されています。私も財団奨学生

4. 効果的な推薦状を書いてもらうために

—加藤雄一郎先生

<http://katogroup.riken.jp/pdfs/kakehashi2015-02-p10.pdf>

として世界で活躍するべく精進していきますので、今度とも何卒宜しくお願い致します。そして、最後にお知らせです。米国大学院進学を志望している地方国立大学生をメインターゲットに情報提供することなどを目的に、**YouTube** にて活動し始めました。各種質問や動画リクエストなども受け付けておりますので、ご利用ください。

<https://www.youtube.com/channel/UChnAxBjC2bQYYwc5g1X4d4w>

以 上